

地域調査実習（地域文化）・無駄安留記班を終えるにあたって

無駄安留記隊の歴史は本年度で閉じる。因幡国全域を対象とした米逸処の旅を追い続けた私たち無駄安留記隊の作業は、ついに終局を迎えた。二〇〇五年の邑美郡に始まった活動は九年にわたった。二〇〇六年の岩井郡、二〇〇七年の法美郡、二〇〇八年・二〇〇九年の高草郡、

二〇一〇年の気多郡、二〇一一年の八上郡、二〇一二年の八東郡、そして二〇一三年の智頭郡と、教員三名と学生たちの営みは振り返るといろいろな思い出があった。無駄安留記全体にわたって文献を中心に暖かい指導を続けていただいた田中仁先生も今年度で定年退職となる。本文の翻刻から付録作成、学生の文章チェックまで多くの役割を担っていた。茨木透先生には、活動全体のみならず初年度から九年にわたりの報告書作成の指導と割り付けを実施していただいた。本格的な報告書である『無駄安留記隊報告書』の作成を続けられたのも、両先生のお陰である。当初から日本海新聞にも連載してするなど、鳥取の隠れた名所を、まさに隠れざる「名所」として再登場させてきた。その成果はどれほど鳥取の人々に届いているだろうか？ はなはだ心許ない点もあるが、豊かな鳥取の文化の発掘に少しでも貢献できていればありがたいことである。

本年度の無駄安留記隊は、智頭郡という山間部の調査にもかかわらず総勢十三名と多くの学生が参加してくれた。おおもむね無駄安留記隊の活動にまじめに取り組んでくれたことは、報告書にも表れていると思うている。例えば、『稲葉民談記』や『因幡志』だけでなく、指示した自治体史（『八頭郡誌』『用瀬町誌』『佐治村誌』『漆の里の昔語り』等）にも

しっかりと目を通し、さらに付属図書館の郷土資料室にも丹念に通ってくれた。まだまだ不十分な点もあることは承知しているが、学生なりに誠実に取り組んでくれたことは大きな成果であった。

さらに、昨年度は、さまざまな理由から須澄を踏破できなかったが、今年度は多くのチャレンジを試みることができた。それには、当地の人々の協力は欠かせなかった。まず、用瀬の歴史に詳しい徳永耕一先生にご案内いただき、屋住や犬山神社などを巡検できたことである。小雨の降るなか、一生懸命ご案内いただいた先生の話はたいへん参考になった。さらに、鳥取市用瀬町総合支所地域振興課・金谷幸一氏には、三角山・洗足山の登山について、少なからぬご助言と丁寧な説明を受けた。おかげで、両山にも登山することができ、報告会や報告書の作成に反映することができた。しかしながら、目的は達したものの、教員も含めて登山をする準備と心構えが必ずしも十分とは言えなかった点は、今後の課題と言えるだろう。

危機管理と従前の準備は野外学習の基本であるが、現在ほど厳しく求められている時代はないかもしれない。臆病なことは十分承知しているが、学生の安全を第一に進め、この九年間人が人等を出さなかったことは何よりであった。そして、長年この非常勤を勤めていただいた佐々木孝文先生、伊藤康晴先生、山下真由美先生にはここにお礼申し上げます。なお、今年度は鳥取県立博物館の三浦努先生にもご尽力いただき、たいへん感謝している。末筆ながらお礼を申し上げます。

（岸本 寛）

2013 年度 無駄安留記隊 隊員

落合 麻衣 (おちあい まい)	鳥取大学地域学部地域文化学科
岸本 采佳 (きしもと あやか)	//
寄能 千明 (きのう ちあき)	//
坂本 宗生 (さかもと むねなり)	//
佐治 晃一 (さじ こういち)	//
ソウ ヨウトウ	//
田中 真純 (たなか ますみ)	//
奈須 卓也 (なす たくや)	//
七里 峻史 (ななさと しゅんじ)	//
槇野 花 (まきの はな)	//
三田 友可里 (みた ゆかり)	//
三宅 媛子 (みやけ ひめこ)	//
山谷 綾 (やまたに あや)	//

茨木 透 (いばらき とおる)	鳥取大学地域学部地域文化学科教員
岸本 覚 (きしもと さとる)	//
田中 仁 (たなか ひとし)	//

無駄安留記隊報告書 2013

鳥取大学地域学部地域文化学科 2013 年度地域文化調査

2014 年 3 月 31 日 発行 (非売品)



編 者 田 中 仁
茨 木 透
岸 本 覚

発行所 鳥取大学地域学部地域文化学科
〒 680 - 0945 鳥取市湖山町南 4 - 101

<http://www.rs.tottori-u.ac.jp/ibaraki/mudaaruki/>

印 刷 (有) 鳥取県農協印刷